

オナガサナエ

トンボ目サナエトンボ科

石川県カテゴリー 絶滅危惧Ⅰ類

国カテゴリー なし

Onychogomphus viridicosta Oguma

選定理由

かつて金沢市で1頭採れただけで、この40年間に県内では確実な記録や採集例がなかったが、加賀市の2地域で再確認された。

形態

腹長39~46mm、後翅長32~37mmで、黄緑の地に黒条がある。オスの腹端近くがふくらみ、尾部付器は長大で曲がっている。

国内分布

日本特産種で、本州の東北地方から九州南部まで分布する。北陸では富山県でも近年記録されていないが、福井県にはまれでない。

県内分布

金沢市石引で、1957年6月1日に未熟なオスが採れたのが、県内で唯一の確実な記録であった。2003年に加賀市の日谷川と曾宇川から羽化し、その後成虫も2頭確認されたが、定着しているか否か不明である。

生態

幼虫は、平地~丘陵の河川の中流域の砂礫底で育つ。成虫は6~7月に羽化し、林間で摂食期を過ぎた後に水辺へ現われ、8~9月にかけて活動する。オスは水面に出ている岩石に静止したり、流れの上を飛びまわったりするが、かなり敏捷である。

生息地の条件

河川の中流から少し上流にかけて、砂礫~砂泥質のやや流速のある部分に生息する。汚染がなければかなり狭い川や、用水でも見られる。メスは移動性が高く、幼虫が狭い用水などで育つこともある。

生存の危機

農業や廃水の流入による汚染と、ダム建設、川床ざらえ、堤防のコンクリート化、ヨシなどの除去を含めた河川の改修や、周辺の開発が絶滅をもたらす要因。未熟期には分散移動して摂食するため、餌を介した二次的影響も及び得る。生息域が人間の生活圏に近く、いったん滅びかけると回復が難しい。
(A)

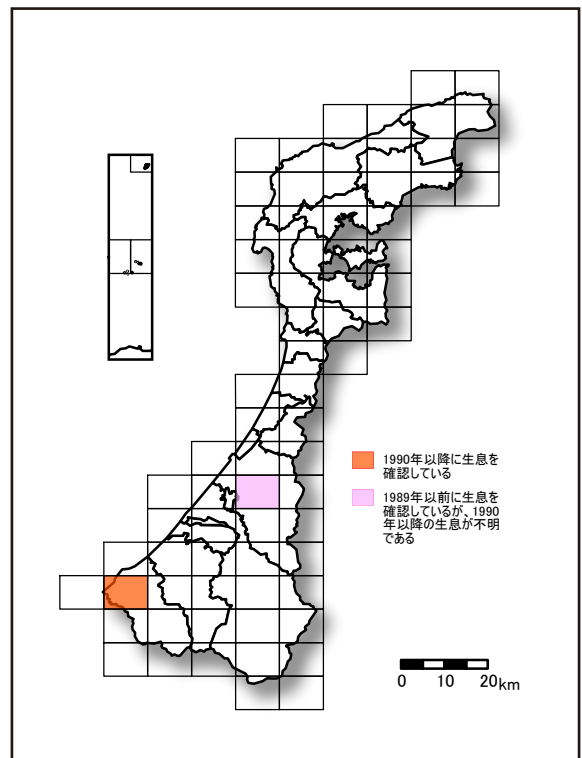
参考文献

武藤 明 1998. 昆虫の生態をめぐって. とっくりばち, (65) : 8-10.

武藤 明 2004. 石川県のトンボに関する知見. とっくりばち, (72) : 1-4.



標本提供者: 武藤明



県内の分布